手術室運営委員会

委員長　小坂 誠

手術室運営委員会の概要

手術室運営委員会は手術を安全かつ円滑に遂行し、手術の質と効率を高めることを目的として、毎月 1 回の予定で開催しています。

委員のメンバーは各診療科の責任者と手術室師長、臨床工学部技士長で構成されています。診療科の筆頭部長交代に伴い、4 月より消化器外科塚田主任部長、整形外科西井主任部長、形成外科杉田部長に委嘱しました。

2022 年の主な検討事項、手術室での実施事項

■1 月
・各診療科、より安価な医療材料へ切り替え、または削減を検討する。
・COVID-19 の感染拡大状況より、業者の立ち入りは各社 1 名とすること、予定手術の患者の抗原検査を継続することを確認した。

■3 月
・手術室映像システムの改修計画を検討した。

■4 月
・麻酔科枠は、月曜日に設けていた自由枠を削除し、固定の診療科の枠とする。
・使用頻度が少ない大型機器は手術エリア外での保管や廃棄を検討する。
・消耗品の在庫について、使用頻度が少ないものや同種製品は集約を検討する。
・急性期充実体制加算の条件をクリアするため、各科で取り組むことを確認した。
・術前のマーキングのルールについて確認した。
・消化器外科塚田主任部長、整形外科西井主任部長、形成外科杉田部長が今回よりメンバーとして参加する。

■6 月
・オカレンス報告は従来の手書き入力からパソコンで入力する形式に変更した。

■7 月
・泌尿器科の腹腔鏡下前立腺全摘出術の指導医立ち会いのため、麻酔枠を融通していく。

■8 月
・ガーゼカウントのルールについて確認した。

■10 月
・キャップは、紐タイプ、ゴムタイプともに、より安価な製品に切り替えることとする。
・合成ゴム製の手術用滅菌手袋について、コストダウンのため製品を切り替えることとする。

■11 月
・手術室映像システム改修について、1 室を先行で改修し、その後続く他の ROOM のモデ

ルルームとする。モデルルームの仕様は、メインで使用している消化器外科と打ち合わせの上、決定する。

■12 月

・特に緊急な手術に限定し、COVID-19 の抗原定性検査の結果が陰性であることを確認し、ER にて挿管後、オペ室への入室を可とする。
・ER での緊急手術に対応するため、ER へ追加設置が必要な設備を確認する。
・泌尿器科の購入希望の医療機器について、購入申請を承認した。消化器外科でも必要であれば、追加購入を検討する。
・滅菌ガウンについて、採用品からの切り替えを前提として、他社のガウンの試用を行う。ガウンのレベル、マスクの有無について、各科で用途を再考する。

これからも手術手技・機器および設備関連の進歩と安全に配慮し、更なる手術件数の増加を目指して、手術室関連の管理およびスタッフの配置・教育等に必要な検討を進めていきます。

引き続き関係各位のご協力を宜しくお願い致します。

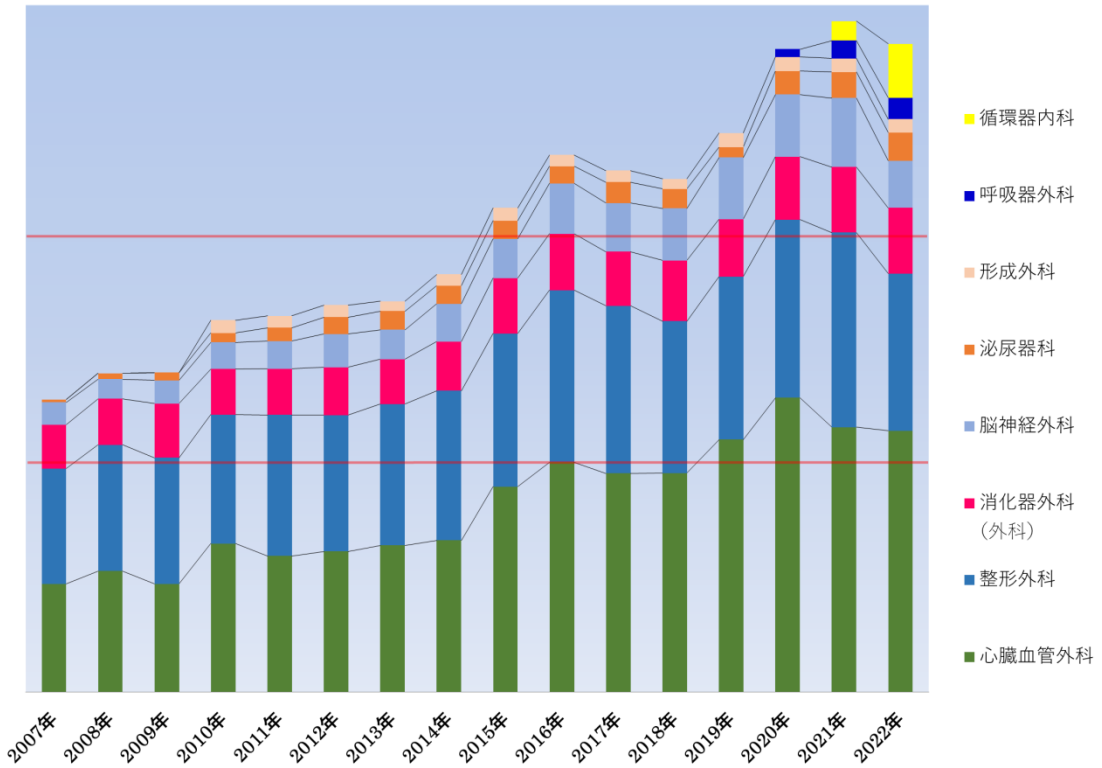

図1　診療科別手術室売上額（年別推移）

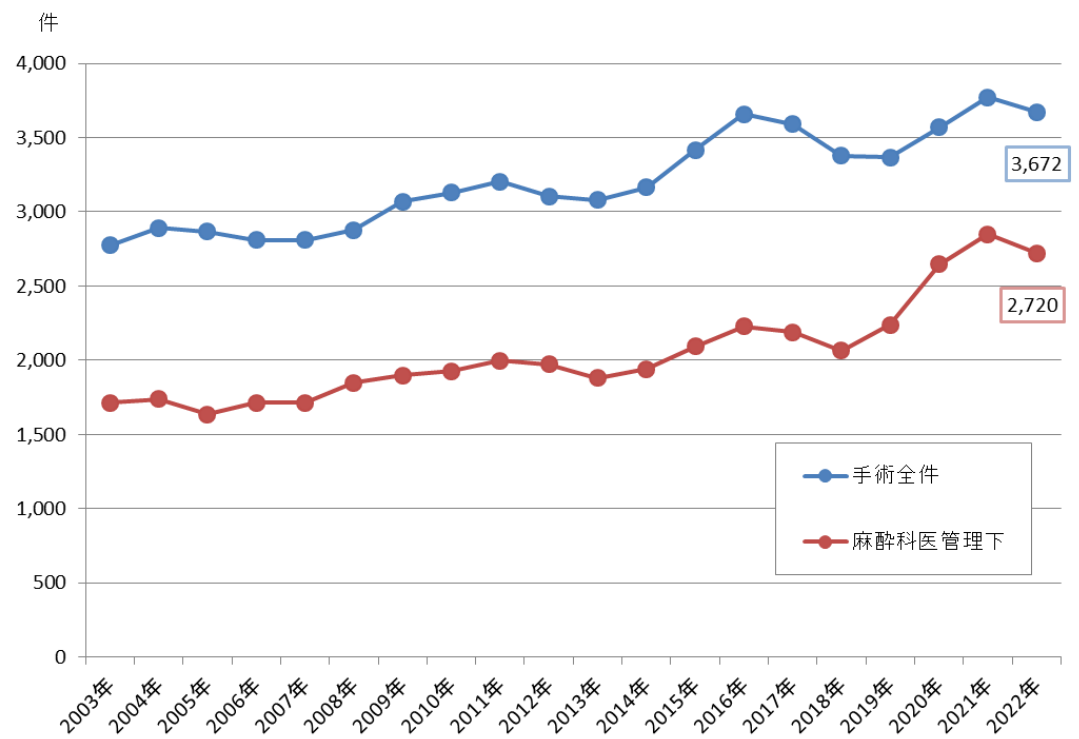

図2　手術・麻酔症例の年次推移